

増補 陰陽道の神々

▶四六判・316頁／定価 2,415円 (税5%込) ISBN978-4-7842-1644-4

【2012年10月刊行予定】

コロンビア大学での発表をもとにした論考「牛頭天王の変貌と「いざなぎ流」」を収録して増補再版。疫神や式神、泰山府君、牛頭天王、八王子、金神、盤牛王、そして式王子、呪詛神たち……。彼らは近代社会が封印し、消去した「陰陽道」の神々である。本書は、知られざる陰陽道の神々の来歴と素顔を平易に説く。

◎ 内容目次 ◎

掲載写真・図版多数

はじめに 一もうひとつの「日本」の神々を求めて一

序章 陰陽道と安倍晴明の基礎知識

「陰陽道」の定義／国家のトップシークレットと「陰陽寮」／安倍晴明は「陰陽師」なのか 他

第一章 追われる鬼、使役される神 一疫鬼と式神一

1 鬼を追う陰陽師

「福は内、鬼は外……」の謎／追儺儀礼の現場から／陰陽師が誦む「祭文」とは 他

2 「式神」という神

式神とは何か／『枕草子』のなかの護法／護法童子は術者の力のバロメーター／式神は「陰陽道」の知識とどう関わるのか 他

第二章 冥府と現世を支配する神

1 冥府神としての泰山府君

泰山府君とコンタクトする晴明／史料のうえの泰山府君祭／焰魔天と泰山府君との関係は 他

2 変貌していく泰山府君

泰山府君祭の多様化／鎌倉幕府の陰陽師と泰山府君／天曹地府とは何か／陰陽道の「繁栄」の時代？

第三章 牛頭天王、来臨す

1 牛頭天王を求めて

祇園祭の祭神の本当の名前は／「祇園社」と「牛頭天王」をめぐる歴史／「播磨国」に顕現した牛頭天王

2 中世神話としての「祇園牛頭天王縁起」

「祇園牛頭天王縁起」の物語、紹介／「吾は速須佐雄の神そ」／誰が牛頭天王＝スサノオ説を作ったのか 他

3 牛頭天王、陰陽道の神へ

牛頭天王と天刑星／「泰山府君王法」を破る／「五節の祭礼」と「二六の秘文」 他



方相氏
『政事要略』巻29より

第四章 暦と方位の神話世界 一『篋篋内伝』の神々一

1 『篋篋内伝』という謎

土御門家が否定した書物／作成者は祇園社の社僧か／『篋篋内伝』の構成、その成立過程／暦注書としての意味 他

2 暦世界の根源神へ

宇宙創成の光景から／五帝龍王たちは何を生み出したか／暦世界の根源神＝盤牛王／もうひとつの黄帝黃龍王譚 他



焰魔天
『覚禪抄』より

第五章 いざなぎ流の神々 一呪詛神と式王子をめぐる一

1 いざなぎ流の神々と陰陽道

家に祭られる神たち／天井裏の聖域へ／グループ神としてのオンザギ／明治初年の呪詛合戦から

2 「呪詛神」の系譜から

「呪詛の祭文」の世界／「取り分け」はどのように行なわれるか／「すそのはらへ」の系譜から／「中臣祓」という呪詞 他

3 式王子の世界

式王子のふたつの系統／式王子となる神霊たちとは／「大荒神のけみだし式」でシフトする荒神 他



豹尾神
『万暦大成』より

疫鬼
『政事要略』巻29より

大歳神
『万暦大成』より

終章 「陰陽道」の神々のその後

標的とされた牛頭天王／陰陽道の神々は何を語っているのか

断章 いざなぎ流への〈旅〉／安倍晴明ブームの深層へ

補論 牛頭天王の変貌と「いざなぎ流」(増補分)

(さいとう ひでき) ……1955年東京生まれ、日本大学大学院博士課程満期退学。椋山女学園大学短期大学部助教授をへて、現在、佛教大学歴史学部教授。専攻は神話伝承学、宗教文化論。おもな著書に『いざなぎ流 祭文と儀礼』(法蔵館)『安倍晴明―陰陽の達人なり』(ミネルヴァ書房)『古事記 不思議な1300年史』(新人物往来社)『荒ぶるスサノオ、七変化』(吉川弘文館)

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel. 075-751-1781 fax. 075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail: pub@shibunkaku.co.jp

注文票

発行：思文閣出版

(京都 取引コード 3402)

冊数	冊	増補 陰陽道の神々	本体2,300円(税別)	ISBN978-4-7842-1644-4
お名前	tel			
	e-mail			
ご住所	〒			
送本方法	☐ 書店経由 (このちらしを書店にお渡し下さい) ☐ 代引 (書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い)			
			本書HPのQRコード	書店番線印

阿蘇下野狩史料集

飯沼賢司編

阿蘇の五岳の西山麓に広がる下野で中世に行われた「下野狩神事」は、頼朝の富士の巻狩りの手本となったとされている焼き狩神事である。その史料、永青文庫所蔵『下野狩日記』『下野狩旧記抜書』とその関連文書、阿蘇家所蔵下野狩関連史料を翻刻。解題、用語解説を付す。

▶A5判・314頁／定価 7,875円

ISBN978-4-7842-1611-6

絵巻 大江山酒吞童子・芦引絵の世界

逸翁美術館編

逸翁美術館所蔵「大江山絵詞」(重文)とサントリー美術館所蔵「酒伝童子絵」を全巻カラー掲載し、酒吞童子絵巻の二大系統を対比させる。また僧侶と稚児の恋愛を中心に中世社会を生き活きと描き出した、館所蔵「芦引絵」(重文)などをも含め逸翁小林一三の絵巻コレクションを一挙公開。

▶A4判・96頁／定価 1,050円

ISBN978-4-7842-1591-1

＊風俗絵画の文化学 都市をうつすメディア

松本郁代・出光佐千子編

中世から近世における風俗絵画のメディア性に着目し、そこに描かれなくなったものの持つ意味や享受者の視点、都の社会における聖と俗の姿、風俗絵画に表された芝居空間や行事のかたちを年代とともにどのように姿を変えたのか、「風俗画」が近代に至りいかなる解釈を得て「風俗画」となり得たのか、など様々な視点からアプローチする。

▶A5判・368頁／定価 6,825円

ISBN978-4-7842-1469-3

祈りの文化 大津絵模様・絵馬模様

信多純一著

江戸時代から近江大津にて作られ、手軽な土産として全国の人々に愛された民画・大津絵。その多彩に綾なす信仰・祈り・教訓そして遊びの画題は多くの人々の想念の数々を端的に映し出す。その起源・絵馬との共通点・画題の意味などを多くの図版をあげて解説した大津絵事典。

▶B5判・178頁／定価 3,675円

ISBN978-4-7842-1425-9

祇園祭の中世 室町・戦国期を中心に

河内将芳著

祇園祭(祇園会)を通して、中世京都を考える。祇園会の見物という行為の検討により、その特質をうきぼりにし、さらに神輿渡御の神幸路・御旅所と都市空間との関係、戦国期の祇園祭の再興の意味や、「闖取」の実態についても解き明かす。

▶A5判・360頁／定価 4,725円

ISBN978-4-7842-1631-4

太子信仰と天神信仰 信仰と表現の位相

武田佐知子編

聖徳太子信仰・天神信仰の比較研究。各専門分野の研究者による、両信仰に関わる美術史、文学史、宗教史、芸能史の研究を集成し、時代のニーズとともに変化する信仰の形態等を宗派や地域を越えて多面的に利用されるそれぞれの信仰の進化形について明かす。

▶A5判・354頁／定価 6,825円

ISBN978-4-7842-1473-0

日本近世の宗教と社会

菅野洋介著

奥州と関東を主に、戦国期以降の仏教・神道・修験道・陰陽道等と地域社会とのかかわりを、東照宮や寛永寺を中心とした幕府権威をも視野にいれて考察。本所権威の在地社会への浸透、在地社会における諸宗教の共存と対抗、民衆宗教の展開とそれを規定する社会情勢、そして在地寺院など宗教施設の「場」としてのあり方を追求する。

▶A5判・380頁／定価 8,190円

ISBN4-7842-1572-0

訓讀註釋 儀式 踐祚大嘗祭儀

皇學館大学神道研究所編

天皇一代一度の国家祭祀・大嘗祭の祭祀・儀式の全貌を示す、最も古い確かな文献である『儀式』(貞観儀式)。本書は、皇學館大学神道研究所が長年に亘り取り組んできた、現存本『儀式』巻二・三・四「踐祚大嘗祭儀 上・中・下」の訓読・注釈研究の成果。

▶B5判・890頁／定価 15,750円

ISBN978-4-7842-1619-2

＊八瀬童子 歴史と文化

宇野日出生著

京都・八瀬の地に平安時代から自治組織を形成し、天皇家や比叡山と深い関わりを持ってきた八瀬童子。非公開関係文書を調査し、彼らの激動と苦難の歩み、今に伝わる思想・行動を歴史に裏付けられた「文化」としてとらえた一書。

▶46判・224頁／定価 1,890円

ISBN978-4-7842-1352-8

＊入門 奈良絵本・絵巻

石川透著

元禄年間に京都で活躍した女性絵師・居初つなの存在を明らかにした作品も収載。御伽草子から王朝物語、軍記物語、歌集、日記、随筆、幸若舞曲、仮名草子など広範にわたる奈良絵本・絵巻の世界を、簡単な解説とカラー写真でご紹介する、入門ガイドブック。

▶B5判・126頁／定価 2,100円

ISBN978-4-7842-1531-7

風俗絵画の文化学 II 虚実をうつす機知

松本郁代・出光佐千子・杉子女王編

美術史・歴史学・文学・文化人類学等を専門とする研究者が、それぞれの専門性を生かした風俗絵画分析を進め、粘り強く議論を繰り返して生まれた学際的文化研究。絵画の制作に関わった人々の複雑に絡み合う視線の交錯を文化的に考察し、そこにあらわれた「機知」―虚実を往来する機微や感性の「かたち」―を明らかにしていく15篇。

▶A5判・450頁／定価 7,350円

ISBN978-4-7842-1615-4

＊権者の化現 天神・空也・法然

今堀太逸著

佛教大学鷹陵文化叢書15

仏・菩薩が衆生を救うためにこの世に現れた仮の姿について明かす。

【内容】第1部「天神」日本国の災害と道真の霊
第2部「空也」六波羅蜜寺の信仰と空也
第3部「法然」浄土宗の布教と法然

▶46判・312頁／定価 2,415円

ISBN4-7842-1321-X

太平記的世界の研究

八木聖弥著

『太平記』の描く時代を広く文化史的視点から論じ、多様な価値観が統合されたその時代性を浮き彫りにする。【内容】研究史／『太平記』とその時代／『太平記』的世界の信仰／猿楽能と『太平記』の世界／『太平記』の世界から幽玄の世界へ

▶A5判・290頁／定価 7,140円

ISBN4-7842-1021-0

崇徳院怨霊の研究

山田雄司著

日本史上最大の怨霊とされる崇徳院怨霊が「いつ」「誰によって」「いかなる状況下で」語られるようになり、そして崇徳院怨霊の跳梁を記す『保元物語』がいかにしてまとめ上げられたのかを文書・記録・物語の相互関係を細部にわたって検討し解明する。

▶A5判・314頁／定価 6,300円

ISBN4-7842-1060-1

祭礼と芸能の文化史

神社史料研究会叢書Ⅲ

藺田稔・福原敏男編

【内容】神社廻廊の祭儀と信仰(松尾恒一)／相撲節会と楽舞(廣瀬千晃)／中世諏訪祭祀における王と王子(島田潔)／鹿島神宮物忌職の祭祀(森本ちづる)／越前志津原白山神社の祭礼芸能(宮永一美)／武蔵国幕閣大名領における祭礼の振興(藺田稔・高橋寛司) ほか

▶A5判・300頁／定価 6,825円

ISBN4-7842-1159-4

＊王権と神祇

今谷明編

【内容】古代神祇祭祀と杵築大社・宇佐八幡宮／北欧神話のフレイと日本神話の大国主神の一比較／社寺行幸と天皇の儀礼空間／六壬式占と軒廊御卜／中世王権と鳴動／『溪嵐拾葉集』における王権と神祇／伊勢に参る聖と王／中世密教における神道承相について ほか

▶A5判・348頁／定価 6,825円

ISBN4-7842-1110-1

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。 ※印の書籍はカバーに汚れ・傷みがございます。